

学校図書館の 自己評価について

2016.01.30

静岡文化芸術大学

林 左和子

評価とは

結果としてどのような変化が起きたかを測定すること

目標は達成できたのか。

活動内容は結果に結びついたのか。

予想外の問題は生じなかった。

目標達成に貢献した要素、貢献しなかった要素は何か

→ 次回の実施に向けた反省材料

より良いサービスを行うために

コトラー、リー『社会が変わるマーケティング』英治出版 2007

評価の測定方法

- アウトプット(サービス提供者の活動の数量化)の測定
内部データをもとに
- アウトカム(利用者の反応)の測定
利用者のアンケート調査、
[利用状況調査] 繰り返し利用しているかどうか
- 科学的・技術的調査
活動とそれによる変化との相関を科学的調査により示す

学校図書館活動の評価の測定を考えると

- 科学的・技術的調査
- アウトカム(利用者の反応)の測定
 - アンケート調査
 - 利用状況調査
- アウトプットをもとに活動内容を評価する → 自己評価

自己評価とは

○自己評価とは自己探求のプロセス

○自己評価を行うためには

- 本当にしたい(しなければならない)ことは何かを明らかにする
- これまでに成し遂げてきたものを明らかにする
- 自分(の組織)の強みと弱みを把握する
- 障害要因となるものを明らかにして、対策を考える
- 将来に向けて、具体的で評価可能な行動目標を設定する
評価基準を明確にしないと自己評価の信頼性を欠く

自己評価のための5つの質問

1. われわれの使命は何か？
2. われわれの顧客は誰か？
3. 顧客は何を価値あるものとするか？
4. われわれの成果は何か？
5. われわれの計画とは何か？

ドラッカー、スターン編著『非営利組織の成果重視マネジメント』ダイヤモンド社 2000

われわれの使命は何か？

○ 現在の使命は何か？

短期的な達成目標＝今やるべきこと、できること

長期的な達成目標、所属組織の目的の中での位置づけ

→達成度にあわせて、「現在の使命」は変化していく

○ 使命を見直す必要があるか？

全体の目的、現在の課題や機会を検討して、適切といえるか。

ドラッカー、スターン編著『非営利組織の成果重視マネジメント』ダイヤモンド社 2000

われわれの顧客は誰か？

○ われわれの「第一の顧客」は誰か？

「第一の顧客」とは、サービス提供によって、生活が改善される人
サービスの向上をはかるために、初期には絞り込むことも必要

○ われわれの「支援してくれる顧客」は誰か？

活動に参加することで、満足感や達成感を味わいたいと思っ
ている人々(ボランティア、資金提供者など)

○ われわれの顧客はどのように変化しているか？

顧客は常に変化している。変化に適応してサービスを考える

ドラッカー、スターン編著『非営利組織の成果重視マネジメント』ダイヤモンド社 2000

顧客は何を価値あるものと考えてるか？

- 「第一の顧客」は何を価値のあるものと考えてるか
価値 顧客のニーズ、欲求、希望を満たすものは何か
- 「支援してくれる顧客」は何を価値のあるものと考えてるか
「支援してくれる顧客」は何が動機となっているのだろうか
どのような「成果」を期待しているのだろうか
- われわれは顧客から何を、どのように学ぶべきか
顧客の声に耳を傾け、彼らが価値がいると考えるものを客観的事実として受入れ、活動に反映させる。

ドラッカー、スターン編著『非営利組織の成果重視マネジメント』ダイヤモンド社 2000

われわれの成果は何か

- われわれ成果をどのように定義しているか
- われわれは成功しているか
- 成果をどのように定義すべきか
何を測定すべきか、どのような尺度が適切かを考える。
また、成功というために欠くことのできないものは何か
- われわれは何を強化し、何を放棄すべきか
ひとつに集中してこそ成功は可能になる
より強化すべきものと放棄すべきものを決める

ドラッカー、スターン編著『非営利組織の成果重視マネジメント』ダイヤモンド社 2000

われわれの計画は何か

- 使命を変えるべきか?
- われわれのゴール(=長期的目標)は何か
 - ・われわれの目的は何か
 - ・われわれはなぜ今この事業を行うのか
 - ・われわれは最終的に何を社会に残してゆきたいのか
- ゴールに到達するための行動計画をたてる
 - ・目標は具体的で評価できるものにする
 - ・責任者を明確にする
- 今の満足に安住してはならない
 - 常に「何をこの社会に残してゆきたいか」を問い続ける

「われわれ」とは誰か

- 学校図書館を運営するのはだれか
- 学校図書館を整備するのはだれか
- 児童・生徒の読書推進に取り組むのはだれか
- 学校図書館を活用した授業を推進するのはだれか

学校図書館の使命は何か

○(一般的な)使命 (学校図書館法第2条)

○ その学校図書館の使命 学校全体の目標の中で

学校図書館構想図

学校のランドデザイン 石岡市立高浜小学校

教育委員会 豊中市教育委員会学力向上・教務係

学校図書館の顧客と顧客が求める価値は

○第一の顧客

教員

児童・生徒

[具体的に必要なものは何かを把握することが課題]

○ 支援してくれる顧客 保護者や学校図書館ボランティア

学校図書館の顧客の変化

障害者差別解消法の施行に伴う合理的配慮

- 教職員の情報の共有、連携・協力・協働
- バリアフリー資料の収集
 - 大きな活字の本、マルチメディアDAISY、LLブック など
- 環境整備
- その他の支援

中山美由紀「学校図書館の合理的配慮に向けて」

http://www.u-gakugei.ac.jp/~schoolib/htdocs/?action=common_download_main&upload_id=4811

学校図書館の成果は何か

- 利用者の満足
- 利用状況

学校図書館の行動計画を立てる

- 実行可能な目標(短期的な目標)

使命の確認



現状の把握



行動計画を立てる

「われわれ」とは誰か 学校図書館の運営

○学校の目標の中に学校図書館を位置づける

- ・学校図書館構想図の作成
- ・学校のランドデザインの中に学校図書館を位置づける
- ・年間行動計画を立て予算の確保

「われわれ」とは誰か 学校図書館の整備

- 資料選定(発注)
- 資料受入
- 資料廃棄
- 資料作成(切り抜きなど)
- 書架整理
- 資料の修復

「われわれ」とは誰か 児童・生徒の読書推進

- 読み聞かせ、ブックトークなど
- 展示
- イベントの企画 など

「われわれ」とは誰か 学校図書館を活用した授業

授業実施者 教員

図書館の資料を活用している

児童・生徒に図書館を活用させている

授業に必要な資料の選定を行う

学校図書館を活用した授業の推進

学校図書館を活用した授業データの蓄積

自己評価をサービス向上につなげるために

- 学校図書館の使命を学校全体の目標の中に位置づける
- 使命をふまえて、短期目標(行動計画)と長期目標を設定
- 行動計画は、実現可能でありかつチャレンジングなものに
- 顧客の声に耳を傾け、変化に対応する
- 短期目標、長期目標について、関係者全員の理解をえる
- 行動計画の各項目の責任者を明確にする
- サービスの向上にともない新しい評価項目を設定するなど柔軟に活用する

ご清聴ありがとうございました